

山形県連小会報

特集号

発行日 平成30年8月28日
 発行者 山形県連合小学校長会
 高橋 禎
 山形市木の実町12-37
 県教育会館(大手門バルズ)

第72回 山形県連合小学校長会研究協議会開催される



大会日程

6月8日(金) 山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)

9:30 ◇受付
 10:00 ◇全体会

○役員紹介

- 1 開会のあいさつ
長谷部 薫 実行委員長
- 2 国歌・県民歌斉唱
- 3 会長あいさつ
高橋 禎 会長
- 4 来賓あいさつ
山形県教育委員会教育長
廣瀬 渉 様
- 5 来賓紹介
鈴木 一尋 幹事長
- 6 大会宣言
設楽喜久子 研修委員長
- 7 閉会のあいさつ
半田 和彦 H31年度実行委員長

○諸連絡

10:40 (休息)
 10:55 ◇研修Ⅰ
 講演『やる気とプラス思考を育てる
まごころの仕事術』
 講師 関根 近子 氏
 (元 株式会社資生堂執行役員常務)

12:30 ◇昼食・休憩
 13:30 ◇研修Ⅱ
 分科会
 16:00 ◇閉会





会長あいさつ

山形県連合小学校長会

会長 高橋 禎

皆様、おはようございます。本日、「第72回山形県連合小学校長会研究協議会」が、最上地区小学校長会の主管で、ここ山形国際交流プラザにおいて開催できますこと、会員の皆様と共に喜びとするところであります。

また、本日は、山形県教育委員会教育長 廣瀬 渉様 代理として 教育次長 澁江 学美 様、山形県市町村教育委員会協議会会長 荒澤 賢雄 様をはじめ、日頃から本会に対して、ご理解とご支援、ご指導をいただいておりますたくさんのご来賓の方々にご臨席を賜りました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、学校にとって今年度の大きな出来事としては、何と言っても、新学習指導要領移行期のスタートであります。再来年度の全面実施を見据えた大切な年を迎えております。これまで以上に「校長のマネジメントの重要性」が大きく掲げられ、会員の皆様には、具体的な方策を携えながら、日々の学校経営に臨んでいらっしゃるものと拝察いたします。

外国語活動・外国語の時間の確保の仕方や、特別の教科道徳の評価を含めた進め方に加え、「主体的、対話的で深い学び」の具現化を意識した授業づくり研修の構築、さらには「子どもを取り巻く環境のめまぐるしい変化」や、「大量退職に伴う教職員の世代交代」など、環境面の教育課題をも鑑みリーダーシップやマネジメント力が求められております。

平成27年度から、山形県の副主題を「夢と希望をもち 共に未来を拓く いのち輝く子どもを育てる学校経営」と掲げ、昨年度は「第57回東北連合小学校長会研究協議会山形大会 兼 第71回山形県連合小学校長会研究協議会」の副主題にも据えて研究協議会を開催いたしておりますが、この副主題に掲げる学校経営の具現化こそが、子ども一人一人の生きがいや満足感、そして自己肯定感につながるものだと感じております。

かつて中学校で教材にしたり中学生に推薦図書としたりした、吉野源三郎著「君たちはどう生きるか」が再び話題になっております。著書の中で主人

公である「コペル君」は、様々な友人と出会い、学び、自分の弱さを知り、「叔父さん」の力強く温かい激励もあって、精神的に成熟していくという構成になっておりますが、この著書に、「いのちを輝かせて生きる」ためのヒントが魅力的に著されていると感じております。そして、これは次代を担う若い世代に対する社会の願いでもあると考えます。「夢と希望をもち 共に未来を拓く いのち輝く子どもを育てる学校経営」は、力強く温かい「叔父さん」の激励のような「校長のリーダーシップ」であり、また確かな育ちを意図する「マネジメント」でなくてはならないと考えます。そのために「学び続ける校長」でありたいものです。

今年度全会員243名が一堂に会して行う、年に一度の貴重な研修の場が本研究協議会になりますが、ご案内の通り、年々学校の統廃合により会員が減少しております。

そこで、今年度は、研修内容の深まりをめざして、これまでの5領域10分科会構成から5領域5分科会構成とする初めての研究協議会となりました。

一人職である我々校長が、互いの情報を交換し、意見を交流できるありがたさを確認した上で、各分科会で研鑽を積み、様々な教育課題に対する協議を通して、進むべき方向性と工夫を共有できる場になることを願っております。

併せて、家庭や地域はもとより、各教育委員会をはじめとする行政とも連携して、協力し合いながらの課題解決に向けた可能性や方策についても大いに協議を進めていただく機会となることを期待いたします。

結びになりますが、本研究協議会を開催するにあたり、日頃にご指導とご支援を賜っております山形県教育委員会、並びに各市町村教育委員会、関係団体、関係各位、そして周到の準備をしていただきました最上地区小学校長会の皆様から感謝を申し上げます、挨拶といたします。

本日一日、どうぞよろしくお願いいたします。



来賓あいさつ

山形県教育委員会

教育長 廣 瀬 渉様

(代読 教育次長 澁江 学美様)

県教育委員会 教育次長の澁江でございます。本日、教育長が都合により出席できず、教育長の挨拶をあずかってまいりましたので、代読させていただきます。

第72回山形県連合小学校長会研究協議会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

校長先生方におかれましては、日ごろ本県小学校教育の充実・発展のためにご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

本研究協議会が今年度で72回を重ね、数多くの先輩方から皆様まで、教育に懸けるひたむきなご努力を連綿と続けてこられたことに深く敬意を表し、今日を迎えられたことに心よりお祝いを申し上げます。

また、永年に亘り本県教育の振興に大きな功績をあげられ、今春ご勇退なされました先生方に対して、心より感謝を申し上げます。今後とも、健康にご留意なされ、益々ご活躍くださいますとともに、引き続き本県教育に対する温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、校長先生方には、4月の公立学校長会議において、本県教育の当面の課題等について概要を申し上げますので、本日は、小学校教育の充実という観点から、4点お話し申し上げます。

1点目は、「教職員の法令遵守、綱紀保持、不祥事防止」についてです。皆様ご承知のとおり、去る4月29日に、小学校教諭が盗撮による県迷惑防止条例違反により逮捕されるという事案がございました。これまでも教職員の服務規律の徹底・不祥事防止について、県教育委員会はもとより各市町村教育委員会、そして各学校とともに努力を重ねてきた中で、こうした事案が発生したことは、児童生徒とその保護者はもちろんのこと、県民全体の信頼を大きく損ねる憂慮すべき事態であると捉えております。現在、県教育委員会で再発防止策を検討しており、県法令遵守委員会においてご意見をいただく予定ですが、皆様におかれましては、各学校において、日ごろの対話による教職員の心身の状況把握を大切にしながら、一層の緊張感をもって法令遵守、綱紀保持、不祥事の未然防止に係る取組みを進めていただきますようお願いいたします。

2点目は、「学校における働き方改革の推進」についてです。このことについては、4月の公立学校長会議で、皆様に「学校における働き方改革の手引」をお配りし、教職員課長とスポーツ保健課長からもお話し申し上げたところでございます。教職員の長時間労働の改善によるゆとりの創造は重要な課題であり、今後も「手引」を十分に活用しながら、県、

市町村、学校が一体となって、すべての教職員が活き活きと働ける学校づくりを進めていかなければならないと考えております。皆様におかれましては、各学校の実情に応じた取組みを進めていただきますとともに、効果的な事例について積極的に情報をご提供いただくなど、ぜひご協力をお願いいたします。

3点目は、「いじめ防止対策」についてです。昨年3月の国のいじめ防止対策基本方針等の改定を踏まえ、11月に県の基本方針を改正いたしました。このことに伴って、学校がいじめ防止基本方針についても、あらためて見直しを図っていただく必要があります。6月は、県の「子どもの『いのち』を守る強化月間」ともなっており、学校の安全教育・安全管理の徹底とともに、いじめ防止の取組みも進めていきたいと考えております。学校のすべての教職員が、日ごろからいじめに対する感度を高め、いじめの未然防止に努めていただくとともに、「何かおかしい」という気づきの段階から問題を一人で抱え込まず、管理職も含めた迅速な情報共有と組織的対応が行われ、早期発見・早期対応により児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、皆様のリーダーシップを発揮していただきますようお願いいたします。

4点目は、「新学習指導要領への対応と確かな学力の育成」についてです。

本県において、国の動向を注視しつつ、「主体的、対話的で深い学び」に対応できる学習方法として研究・実践を進めてきた探究型学習への取組みは、今年度で4年目を迎えております。先週6月1日には、ここ山形ビッグウイングを会場として、公開フォーラムを開催いたしました。皆様からも多数ご参加いただいたことと思いますが、教職員はもとより、保護者や地域コーディネーターの方々、そして宮城県や秋田県など他県からの参加者も含め、約400名の方々からご参加いただき、探究型学習のこれまでの成果と、これからの取組みの方向性等について理解を深めることができました。

今後、急激に変化する社会の中で、主体的に思考・判断・表現し、対話を通して協力関係を築き、学び続けることで自らの将来と地域の未来をきりひらいていく人間を育むため、探究型学習の取組みを一つの契機としながら、各学校における授業改善を一層進めていただきますようお願いいたします。

むすびになりますが、これからの校長先生方のご健勝と山形県連合小学校長会の益々の充実と発展をご祈念申し上げ、挨拶といたします。

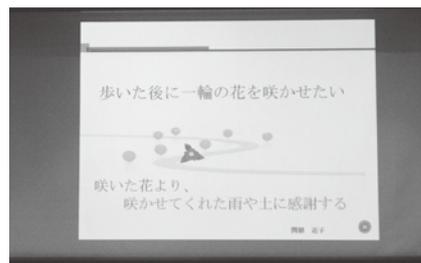
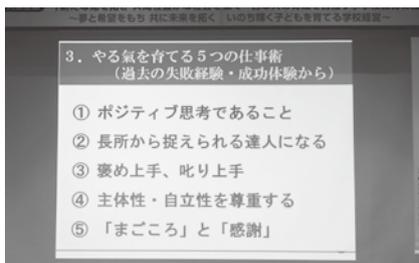
講演

演題

「やる気とプラス思考を育てるまごころの仕事術」

講師 関根 近子 氏

(元 株式会社資生堂執行役員常務)



講演会

講演会に参加して

新庄市立日新小学校 齊藤 民義



関根近子氏のご講演では、様々な角度から示唆に富むお話をいただき、あっという間の90分でした。

ご講演の中で、失敗から学んだマネジメントということで、①「内発的動機付け」が大切であること。②多様性を認め、メンバーの納得感を以って解決に導くこと。③メンバーの強みを見つけ、伸ばし、組織の強みまで引き上げる、といった組織マネジメントについてお話をいただきました。どのような教職員組織を作っていくかという点で、大事な視点を学ばせていただきました。

また、やる気を育てる5つの仕事術ということで、①ポジティブ思考である。②長所から捉えられる達人である。③ほめ上手・叱り上手である。④主体的・自立性を尊重する。⑤「まごころ」と「感謝」を持つ。といった5点を挙げてご指導をいただきました。さらに、強い組織にする共通項目として、4つの観点からお話いただきました。校長として、教職員の組織作りは非常に重要です。関根先生からは、たくさんのお話を学ばせていただき、私たちの背中を力強く押していただいたように思います。

第 1 分科会

学校経営

○学校経営ビジョンの実現を図る、活力ある 学校運営組織の構築

～活力ある学校づくりを担う次代スクールリーダーの育成～

山形市立東沢小学校 板垣 由紀子

研究協議とまとめ

(趣旨)

教育を取り巻く環境が変化する中、明確な経営ビジョンのもとで組織的な取組みが求められている。本分科会では、活力あふれる学校づくりの実現に向けた組織づくりや人材育成などについての校長の役割を探る。

(研究協議内容)

[柱] ミドルリーダーを育てる組織づくりを進めるための校長の役割はどうあるべきか。

○明確な経営ビジョンを示し浸透を図る

- 学校教育目標をキャッチコピーのような形で示し職員で共有できると、様々な行事でも意識した取組みが見られるようになった。
- 職員にとってわかりやすい文言は、子どもたちにも浸透しやすい。
- 経営ビジョンと人事評価の自己目標を関わりさせるようにしている。

○経営参画意識を高め人材育成を図る

- 30代は担任力をしっかりつける時期。これが基礎になって40代の学校経営参画にも生かされる。
- ミドルリーダーの対応力を育成するため、シニアリーダーに次を育てる意識を持たせることが重要である。
- 広い視野を持たせるためにも、校務分掌を固定化せずに変えてみることも必要。また、校長として、「任せて、認めて、ほめる」ことが大切である。
- 主事や養護教諭など、一人職の育成にあたっては、例えば校長が主事と一緒に校内巡視をするなど、管理職が積極的に関わる必要がある。
(記録 山形市立第五小学校 志村 彰)

第1分科会に参加して

上山市立宮川小学校 竹田 典克

大量退職者・大量新規採用者によって、ここ数年で、学校の年齢構成は大きく変わることになり、次代を担う管理職候補を早急に育成することは、喫緊の課題である。

この度の山形地区校長会からの発表は、「学校の年齢構成」「主任層の年齢構成と職務の経験」「主任層の課題意識」等、具体的なデータを基に課題を浮き彫りにしての提言であった。40代後半までほとんど経験を積まないまま主任となった世代を管理職候補として育成するための方策として、自校での校長の役割と校長会組織としての役割を明確にしてあり大いに参考になった。また、校長が主任層に求める力と主任層が付けたい力として、「学校経営マネジメント」「危機管理対応力」「指導力」の3点が共通していることもわかった。

校長はこのことを踏まえ、自校では、個々の主任層に対し機を捉えて直接指導していくと同時に、自覚と責任を持たせるための組織作りと経験を積み上げていくこと、校長会組織としては、年代に応じた研修を意図的・計画的・組織的に行い、主任層になる前から主任や管理職に必要な資質と能力を身に付けさせていくことの必要性を改めて感じた。

将来自分がスクールリーダーとして学校を運営したいという強い意志と意欲を持つ教員を一人でも多く育てていくためにも、我々校長が魅力ある学校づくりをしていく重要性を再確認した協議となった。



第 2 分科会

教育課程

○知性・創造性を育む教育課程の編成

～未来を切り拓く力を育む教育課程編成にかかる
校長の役割と指導性～

東根市立大富小学校 奥山 衛

研究協議とまとめ

(趣旨)

これからの社会の課題に対応するためには柔軟な思考や粘り強く解決にあたる未来を切り拓く力が必要である。地域と共に子どもにつけたい資質や能力と導く方向を共有し、社会に開かれた教育課程のもとにP D C AのPたるプランニング戦略としての教育課程編成が重要である。

(研究協議内容)

校長の果たす役割と指導体制のかかわりについて4つの視点に基づき2つの柱(①経営参画・②マネジメント)を立てて協議した。

視点1: 校長としてつけてやりたい資質能力

他者との良質なかかわりを持ち、協働的に対応するために必要な思考力・判断力・表現力、特にコミュニケーションを取り合って生きていく力を重視する。

視点2: 経営参画意識の向上

シンプル化、可視化、スローガン化することで、すべての教員が当事者意識を持ち自校の重点目標を理解し行動する。

視点3: 社会に開かれた教育課程の編成

学校運営協議会を軸として地域と密着し、住民やPTAの意見を学校経営に反映させる役目、地域と協働して子どもに資質能力を育成していく取組み。

視点4: カリキュラムマネジメント

幼小中のつながりを意識した連携会議や体験活動を行っている。各学校や施設を貫くビジョンとマネジメントシステムを持つことが大事。

○グループ報告から

- ・校長のリーダーシップを図る手立てとして、経営方針のシンプル化、可視化が教職員への理解と深化を容易にし、PTAの理解と協力を進めていく上でも有効である。
- ・社会に開かれた教育課程を仕組んでいくために、学校運営協議会の役割が大きく、校長の考え思いを地域に降ろしていく大事な場となっている。
- ・教育目標を意識した活動のねらいになっているか、教職員が計画の段階から児童の実態とゴールの姿をイメージして実践していきたい。

(記録 大石田町立大石田北小学校 石井 浩幸)

第2分科会に参加して

天童市立干布小学校 三好 義宏

東根市立大富小学校長の奥山衛氏が北村山地区25校でのアンケートを基に、校長の根本ビジョンの在り方(役割と指導性)について発表した。ビジョンには、地域性や校長のリーダー性が反映されながら確立していくものであり、大変興味深い発表内容であった。

紹介された学校の取組みのキーワードを示す。

- ・「目標の共有化と参画意識の向上」「校長のかかわり方のシンプル化・可視化・スローガン化」
- ・「横断的扱いの体験型ふるさと学習の取組み」
- ・「幼少中の接続を意識したカリキュラムマネジメント」

校長に求められるかかわりとは、以下の4点であり、ベクトルを揃える事に他ならないと感じた。

- 明確なビジョン提示・合意形成
- チーム・組織的な推進
- ねらいを達成するための指導助言
- 家庭や地域との連携

グループ討議では、6名の参加者と柱に沿って話し合った。教育活動は、付けたい力を明確にしてマネジメントし、開かれたカリキュラムを作るものだと確認した。また、校長が分かり易く方針や目標を示す場合、職員の内的動機付けにも気を配る必要があるという声もあり、合点がいった。

次年度協議会に、東村山地区が発表を控えており、発表内容や分科会運営に学ぶべきことが多かった。任に当たってくださった皆様に感謝したい。



第3分科会

指導・育成

○学校の教育力を高める研究・研修の推進

～学校の教育力を高める教職員研修の在り方と校長の役割～

米沢市立塩井小学校 紺野 健

研究協議とまとめ

(趣旨)

学校の教育力を高めるには、教職員一人一人の担任意識向上を図るとともに、課題解決に向けて機能する教員集団を育成することが大切である。本分科会では、担任意識を高め、課題解決に向けて機能する教職員集団を育成するための校内研究・研修の構築と校長の果たすべき役割を明らかにする。

(研究協議内容)

- 1 教員の研修意識をいかに高め、高まった意欲をどう醸成していくか。
 - 研修の必要感を持たせるためには、学校の課題を明確化することや教員一人一人の課題意識の掘り起こしが必要。教員面談の時間を活用するなど、常日頃のコミュニケーションを大切にすることで課題把握ができる。
 - 学年主任や研究主任などキーマンを動かし、実践を広め、研修につなげられるように校長が働きかける。
 - 校長は、変化を与えていく。前年度踏襲が一番簡単であるが、そこに変化を与えることで研修・研究につながっていく。
- 2 教員のニーズと校長の思いを融合させた教員同士の学びをどう日常化していくか。
 - 学年主任会や子どもを語る会は、教員一人一人のニーズを把握したり課題を共有したりできる機会であり研修の場になっている。
 - OJTは大切だが、特別な時間を設定するのではなく、日常的にいろいろな場面で行いたい。学年や校務分掌などで、若手とベテランを意図的に関わらせ、お互いの学びの意欲を高めたい。
 - 学校間のネットワークを生かすことで手本とすべき教員と出合わせることができる。小規模校同士であれば、学年部ごとに集まった研修や情報交換ができる。

(記録 米沢市立三沢東部小学校 岩倉 由美)

第3分科会に参加して

高畠町立亀岡小学校 高橋 宏幸

ベテラン教員の大量退職時代へ突入した今、ミドルリーダーの育成と若手教員への教育財産の継承はまさに教育界の喫緊の課題といえる。その課題解決に向けた米沢市校長会の取組みは、「人材育成」「学力向上」「組織の活性化」の3つの視点を踏まえた大変示唆に富む内容であった。特に米沢市内各校の特色あるOJT・校内研究・校内研修の実践例では、それぞれがイベント的な発想ではなく、丁寧な情報分析の基で行われ、且つ校長としての思いが明確に込められている点や、市全体として計画的にマネジメントされている点に、教員の指導育成に向けての力強さを感じた。今後自校の研修においても大いに参考にさせていただきたい。

その後のグループ討議・発表では、教員の研修意欲を高めていくための具体的方策や、働き方改革を意識した研修時間確保のための行事精選・関係機関とのネットワークづくり等、各校の実態に応じた意見交換が行われた。成果はもちろんであるが、各学校の悩みや苦勞を共有できたことは、私にとって大きな収穫であった。

全体を通して、学校経営の基盤は人材育成であり、教員一人一人の実力向上が、学校の教育目標達成のための強い力となること、そして、その人材育成に向けてのポジティブな気構えを、校長自らが持ち続け、発信し続けるリーダーシップのあり方を本研修で学ばせていただいた。



第4分科会

危機管理

○ “さしすせそ”で磨く 安全・防災教育

飯豊町立第一小学校 菅原 透

研究協議とまとめ

(趣旨)

学校には、さまざまな災害、事件、事故に対して生涯にわたって自らの安全を確保することができる基礎的な素養の育成や進んで安全・安心な社会作りに貢献できる資質・能力の育成が求められている。

本分科会では、こうした視点から、子どもたちが危険の予知・回避や主体的に判断し行動できる能力を身に付けるための、安全・防災教育の推進と校長の果たすべき役割を明らかにする。

(研究協議内容)

〔柱1〕「子どもの命を守り、育む仕組みを構築するために、評価を生かしたマネジメント・サイクルをどう機能させていけばよいか」

- ① 「季節・時間・地理をも考慮した地域の特性」の把握が重要である。その特性に合った仕組みが構築されているかを評価したい。また、校長は職員や地域と実態や対策を共有する仕掛けを作りたい。
- ② 子どもに付けたい力が育っているか、安全確保に関わる子どもの意識が育っているのかも精査しなければならない。

〔柱2〕「未曾有の災害に対応するために、校長としての判断力、地域との連携力を、どのように高めていくか」

- ① 地域と連携協力する仕組みが十分に構築されていない場合、校長がリーダーシップを発揮したい。
- ② 行政との連携こそが重要であり、校長の役割である。

(まとめ)

子どもや職員に付けたい力を吟味してPDCAサイクルを回したい。校長は、現場を知ること、五感をフルに働かせて実態を把握することが必要である。関係機関・行政との連携にリーダーシップを発揮するのが校長の役割である。

(記録 飯豊町立添川小学校 佐々木英明)

第4分科会に参加して

鶴岡市立大泉小学校 後藤 克人

第4分科会は、「命を守る安全、防災教育の推進」という研究課題で発表・協議が行われた。今回の研究協議会は、6月8日。奇しくも大阪教育大学付属池田小学校の事件が起きた日に、「危機管理」について研修することの意味を全員で共有しながらの分科会となった。

西置賜地区の菅原透校長先生の発表は、「危機管理のさしすせそ」をもとにした安全・防災教育の実施によって、危機対応力を高め、安心安全で信頼される学校づくりをめざした飯豊町、小国町各校の実践をもとにするものであった。この発表から、

- ① 子ども、そして大人が主体的に動くことができる手立てを工夫することで危機予知・回避能力が効果的に育成されること
- ② 防犯・防災教育は、学校・家庭・地域が一体となった取組みでより大きな効果を生むことを学んだ。

協議では、7つのグループで熱心な意見交換が行われた。「災害などの危険発生について最悪の状況を想定する(メールを使えない等)」「つけたい力を吟味してPDCAを回す」「校長が関係機関や行政への働きかけを率先して行う」「校長が現場を知るために自分で歩き、自分で見ることの大切さ」「現場の状況をよく知ってもらいしかけづくり」等々、校長として働きかけるべき大切な観点を確認しあうことができ、とても有意義な会となった。



第5分科会

教育課題

○地域と共にある学校づくりと校長の役割

大江町立左沢小学校 日塔 宜 邦

研究協議のまとめ

(趣旨)

社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く課題は複雑化している。それらを解決し、子どもたちの成長を促すためには、地域・家庭・学校の連携や、異校種間における学びの連続性を重視することが必要である。本分科会では、地域を愛する子どもを育て、地域と学校が共生する「地域貢献」を柱に、連携を推進する上で、校長の役割を明らかにする。

(研究協議内容)

〔柱1〕地域を愛し子どもの学びとなる地域貢献活動となるために校長の役割はどうあるべきか。

- 地域のめざす子どもの姿と学校のめざす子どもの姿を共有するために、校長自ら地域の会議に積極的に参加し、信頼関係を築き、情報を集め、課題を共有し連携を進める。
- 子どもが主体的にかかわるためにも、活動ありきで活動を続けるのではなく、本当に価値ある学びと実感できる活動となるように工夫する。
- 地域の課題や願いを教職員が聞くだけでなく、子どもたちも話合いに参加するなど、活動の目的を子どもと共有できるようにする。

〔柱2〕学校と地域が共生する地域貢献活動となるために校長の役割はどうあるべきか。

- 教職員が異動になっても、持続可能なシステムを作っていくことが大切である。そのためにも、活動を担っている人の世代交代ができるよう、新たな地域人材発掘に努めなければならない。
- 地域を愛し、地域で生きていく子どもを育成するためには、地域のまとめ役である地域コーディネーターを育成しなければならない。
- 地域貢献活動の課題を整理し、一度リセットをして、活動を再構成することも必要である。

(記録 朝日町立大谷小学校 村越 靖)

第5分科会に参加して

酒田市立広野小学校 阿 彦 淳

「地域と共にある」学校としての使命の一つに、地域を愛し、地域から愛される子どもをつくることあげられる。地域貢献活動等を学校(子ども)と地域社会の双方でアイデアを出し合って創り上げることにより、子どもたちは地域社会からも認められ、自己肯定感を強め、地域社会そのものも元気になっていくことにつながる。

本校でも「社会貢献活動日」を課外活動として位置づけて、全学年で実施している。校内や地域で必要なことは何か、自分ができることで何か役立てるものはないかという発想からスタートしている。そのためには、地域の方と子ども達との対話やふれあう場面が必要であり、可能な限り子どもたちが主体的な地域参画へと視野を広げていくことが重要である。また、地域を愛する心情を子どもの活動の視点で置き換えると、「人や事へのあこがれ」「よさを残す」「よさを活かす」「活き活きとした姿」「自分ごとにする」などが思いつく。今回の提言にあった実践にはその視点が多く含まれており、大変参考になった。

地域ぐるみで学校を守り、子どもたちと地域を育てようとする持続可能な体制と気運を創り上げることをめざしたい。そのためのストーリー化、コネクト、アナウンス、アピール、プロデュースなど、校長としての役割は大きい。





開会の挨拶



閉会の挨拶



第1分科会



第3分科会



司会



大会宣言



第2分科会



第5分科会



第2分科会



第4分科会

